

# 日本株を見直そう（その3）

## ～強みを活かして世界で稼ぐ～

今回は3つの会社をご紹介します。いずれも「強みを活かして世界で稼ぐ」ことで業績を伸ばしている日本企業です。

### 事例① 「モーター」で世界トップ、日本電産

日本電産は「回るもの、動くもの」に特化した「世界No.1の総合モーターメーカー」です。自社の強みを高めるために、機械設備・部材メーカー、競合相手まで買収することで生産技術力や特許を蓄積してきた企業で、マネジメント力は卓越しています。

2000年度には国内売上と海外売上は1,200億円程度で概ね同規模でしたが、2016年度には国内約1,900億円に対し、海外が約1兆円と大きく伸びました。

### 事例② 「センサー」で世界制覇へ、キーエンス

キーエンスは特定の大型製品に依存することなく、多種多様な検出制御機器、計測制御機器、自動化用測定機などを独自に開発し続ける総合FA機器メーカーです。様々な業界のものづくりの生産現場を支え、生産性、品質、安全などの向上に貢献しています。

2001年度には国内売上約650億円、海外売上約160億円と国内中心でしたが、2016年度には国内と海外が共に2,000億円超と、とくに海外売上が大きく育ちました。

### 事例③ 「エアコン」で世界トップ、ダイキン工業

ダイキン工業はエアコンの世界トップメーカーです。当社の強みは技術開発と海外展開で、技術開発では、高い省エネ性・利便性を追求し、競合他社を引き離し、海外展開では、1970年代の欧州進出を皮切りに、2001年米トレン社との提携、2006年マレーシアOYLインダストリーズ社の買収などで、エアコン売上世界首位に浮上しました。

2002年度には国内売上約3,600億円、海外売上約2,100億円でしたが、2016年度には国内約5,200億円に対し、海外が約1.5兆円と国内の3倍の規模に成長しました。

次回に続きます。

※なお、弊社が運用を行なっている主な「日本株ファンド」の組入銘柄の参考情報を提供することを目的としており、特定銘柄の売買などの推奨、また価格の上昇や下落を示唆するものではありません。また、過去のデータであり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

図1：日本電産の内外売上高と株価の推移

期間：（売上）2000年度～2016年度、年度

（株価）2000年4月末～2017年5月末、月次

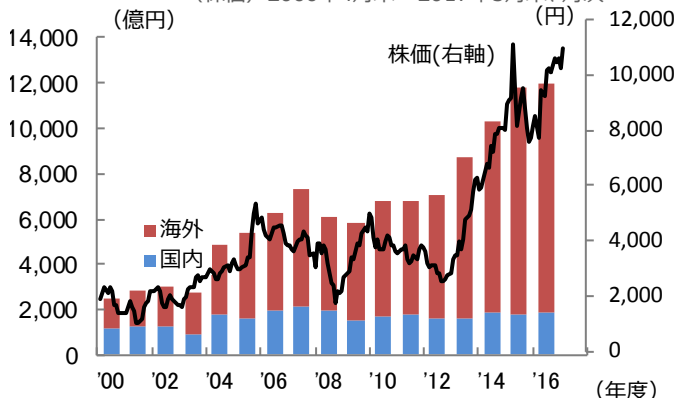


図2：キーエンスの内外売上高と株価の推移

期間：（売上）2001年度～2016年度、年度

（株価）2001年4月末～2017年5月末、月次

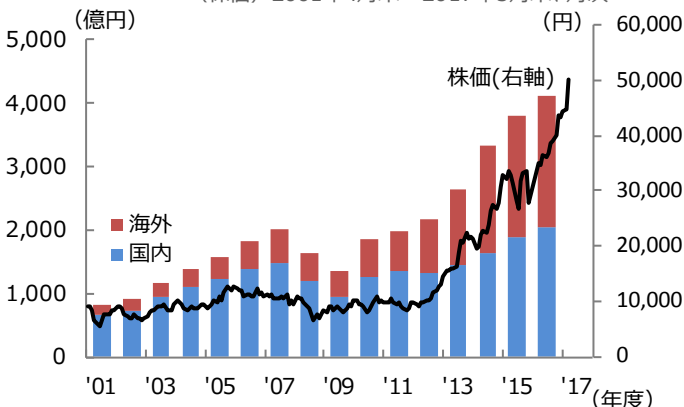
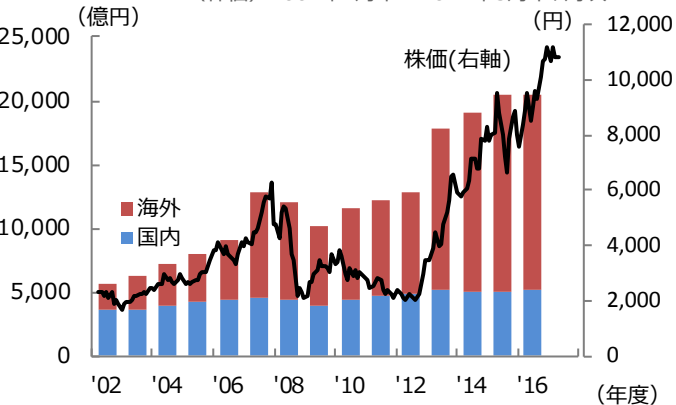


図3：ダイキン工業の内外売上高と株価の推移

期間：（売上）2002年度～2016年度、年度

（株価）2002年4月末～2017年5月末、月次



出所）Bloomberg、各社ホームページを基に野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。